

日本の職業人教育の課題と 熊本大学への期待

The diagram illustrates the research focus of the Graduate School of Instructional Systems. It is centered on '博士後期課程 教授システム学 (研究方法論教育)'. This central focus is supported by three main research areas: 'eラーニング開発の高度専門家' (Advanced e-Learning Development Specialists), '教育研究発表 博士 (学修)' (Education Research Publications, Doctoral Studies), and '教授システム学 博士 (専攻) 博士号取得後進修' (Instructional Systems Doctoral Studies, Post-Doctoral Research). The central focus also involves '博士前期課程 教授システム学 (研究方法論教育)'. The research is categorized into '社会科学的な研究方法 (経営学領域 量的・質的調査手法)' and '情報学的な研究方法 (システム開発・研究手法)'. A vertical label on the right indicates '研究を促してeラーニングの高度化を推進' (Promoting research to advance e-Learning). A bottom label indicates '研究 高度化 を目指す' (Aiming for research advancement).

職業人教育システムのイノベーション研究拠点形成プロジェクトの 報告を伺って

- * 日本の為にも重要であると感じたこと
職業人教育システムに関する研究を更に高度化し、イノベーションを先導する全国拠点として地位を確立する。
人材育成を通じて、職業人教育システムに関する研究者等が多数輩出されることを目指す。
- * 同感であること
我が国の大学の教育学分野は、「ペダゴジー (pedagogy)」に偏り、「アンドラゴジー (andragogy)」の視点からの研究教育が不十分である。また、企業内教育に関する研究教育を行う大学院は、本専攻以外にほとんどない。我が国の人材育成上の重要課題に大きく貢献し、世界最高水準を目指し得る研究拠点として活動している。
- * 続けてほしいこと
 - 教育イノベーションの基盤となる教授・学習システム開発
 - プロフェッショナル (専門職業人) 養成・研修システムのイノベーション
 - 高等教育におけるエンプロイアビリティ (就業力) 育成システム
 - 学習支援システムやポートフォリオ等のシームレス統合システム開発

職業人教育システムのイノベーション研究拠点形成プロジェクトの 報告を伺って

- * 実用化してほしいこと
 - プロフェッショナル養成 (2D) の育成プログラムの開発と実用化
 - eラーニングでの自主的な学習を支援するツールおよび運用ノウハウの開発
- * 活動の継続について
是非このようなプロジェクト活動を継続する方策を練ってほしい
研究成果の実用化⇒普及活動⇒社会の進化に対応する職業人教育の研究/実践支援
⇒サービス産業化、ビッグデータ活用能力、Agility

職業人教育システムのイノベーション研究拠点形成プロジェクトの 報告を伺って

日本eラーニングコンソシアム 会長
モバイルラーニングコンソシアム 会長
富士ゼロックス (株) で20年企業内教育実践
ゼロックスコーポレーションに富士ゼロックス製品の教材を輸出、アメリカでのCRJやLeaner Centricを活かした企業内教育と経験
NTTラーニングシステムズ (株) で教育事業会社設立に本画、eラーニングを含む研修事業、映像事業、インターネット事業を立ち上げ
アメリカの企業内教育とeラーニング活用を30年にわたるベンチマーキング

文部科学省
大学設立審査委員会 現代GD審査委員会 大学通信教育協力者会議
元 鳴門教育大学 大学院 非常勤講師
前 熊本大学
大学院 教授システム学専攻科 非常勤講師

企業内教育学は必須の学問

CRJ: Caution Instruction TCL: Trainee Centred Learning
ID: Instructional Design

- 企業が求める企業内教育は業務実践能力の育成は必須
- 日本のCUは実務能力の育成分野には踏み込めていない
- 実務への貢献を評価出来ない教育リソースの消費は経営層は認めない
- 実務に貢献できる教育であれば投資、貢献できなければ経費

企業内教育の低価格
全社のeラーニング コービー自給 痛感に必要な人材育成
Values/理念、価値観、文化、メンツスの共有
事業展開に必要なコンピテンシーを持った人材育成
事業のハイブリッドアップ

CBTとID

Boeingは圧巻

TRAINING PRODUCTS AND SERVICES
Computer Based Training (CBT)

- Boeing Scholar/Teach CBT software
- Training in use of CBT
- Consulting and courseware development
- Scholar/Teach software installation and support
- Scholar/Teach custom modification

仕事には非構造化情報がより重要になる

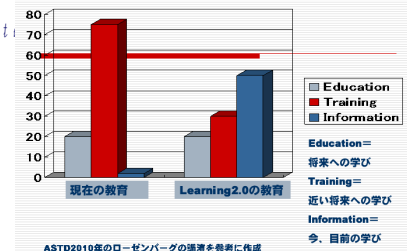


- 非構造化情報とは仲間、専門家の持つ暗黙知や形式知化された各種情報
- 非構造化情報とうまく使う術は重要な組織と個人の能力
- 教育システムはこの構造に気づかなければならない

教育の機能を変革せねばならない

- 最新の Learning スタイル
- Education = 将来への学び
- Training = 近い将来への学び
- Information = 現在の仕事への学び
- 速い仕事 =

俊敏性 = agility



熊本大学 教授システム学専攻科への期待

- * 企業内教育をマクロの視点で俯瞰できる職業人教育のプロフェッショナル育成を期待している
- * Andragogy の実践ノウハウを蓄積し、上げてほしい
- * 情報社会のワークパラダイムに適した企業内教育の実践ノウハウを蓄積/教育を期待している
- * そして大きくなって企業内教育のプロの数を増やしてほしい ⇒ 数が少なれば力にならない

